

令和7年度 第1回まちづくりミーティング

日時:令和7年7月8日(火)10:30~11:30

場所:三和荘 会議室

団体:福知山マミハグ

○主な話し合いの内容

市長: マミハグの皆様は、妊娠期・出産後とお母様の支援を専門的な立場から定期的にされており、大きな力になっていると感じている。行政も様々な支援を行っているが、皆様のようなそれぞれの取組みも組み合わせ、まち全体で「子育てがしやすいまち」になってほしいと考えている。

出生数の減少が日本全体で進んでいる中、「子どもたちを産もう」と思っていただけ、「このまちで子どもを産み、育てたい」という気持ちになっていただくことが大切であると考え、ベビーファースト宣言も行ったところ。多くの意見を聞かせていただきたい。

【意見交換】

団体: マミハグでは、「ママのためのほっとサロン」を開催している。赤ちゃんを連れてお母さんをメインに考えており、「身体と心が休まる場所」、「身体を自分でもメンテナンスできるようになる学びの場所」、「専門家と簡単に(無料・予約不要)つながれる場所」を作りたいと思い、各専門家が力を出し合って開催している。

市長 PT(理学療法士)は、子ども達から高齢者の方まで幅広い方がお世話になっている仕事だと感じている。

団体: お母さんたちのケアを行うために独立して取り組みをしている。

市長: 市として、下六人部児童センター、丘児童センターにおいて赤ちゃんを迎える・お世話体験の教室を行っている。また産後ケア事業を大呂ガーデンテラスで実施はしているもののニーズが多く、供給が追いついていないことを認識している。

団体: 薬剤師と産後ケアアンバサダーを兼任することで、妊娠期などの服薬の相談等を気軽に相談していただける。きっかけは周りの方の産後うつなどの状況を見て始めることとした。

また、自分自身の経験を通じて産後ケアアンバサダーの取組みを始めた。育児が始まって大変な思いをされているお母さんたちの力になりたいと考えようになった。

バランスボールを使った産後ケアも行っているが、これも自身の経験を通じて始まったもの。お母さんたちは、「大人」の方と話をしたいと思っている方も多い。児童館などで子どもと遊んでいても家と状況はあまり変わらないので、職員の方がお母さんに話しかけていただくなどできればと感じているところ。

市長: 色々な意見を教えていただいて大変ありがたい。

団体： お母さん方の産後ケアなどに対する補助金などは財政的に厳しいものか。

市長： 人件費の上昇もある中で、財政は非常厳しい状況にはある。行政は「稼ぐ」ということが原則はできないので、事業のやりくりを行う中でしっかり要望として受け止めたい。

団体： 身体ケアもだが、おむつやおしりふきなど日常的に使用する物も高騰しているため、補助等があったら嬉しいと思う。

ベビーファースト宣言の最終の目標は。

市長： まち全体がそれぞれの立場で「このまちで子どもを産み、育てたい」と思えるまちにすること。例えばイクボス宣言を行ったが、宣言をすることが大切ではなく「何をしていくか」が大切だと考えている

団体： どのようなことをすれば「このまちで子どもを産み、育てたい」につながるかが難しいと感じている。市長はどのように思うか。

市長： 子育て支援を行うことも大切ではあるが、即座に少子化対策につながることはない。抽象的な表現になるが、周りの大人たちが子どもを気にするようなまちの雰囲気が必要なのかなと考えている。また、子どもだけでなく、オレンジのまちづくりを進めているように一人ひとりが大切にされるまちづくりを進めていきたい。

団体： 2040 年市民会議のことを SNS で見ることもあり、お母さんたちの中でも話題になっている。言葉にして入力することを後回しにしてしまうこともあるが、市民の意見を聞くということが伝わってくると感じている。

市長： 今回はプラットフォームを用意して意見をいただけるようにしている。ベースとなる未来予測は、どうしても人口減少を反映するためネガティブな話も多くなってしまう。ただこのような状況も踏まえてもより多くの方が話し合っていただきたいと思う。

団体： これまで写真などでしか見ることがなかったが、このように市長と直接話をしてできて、雰囲気も感じることでできてよかった。

